

【和鉄の道・Iron Road】【鉄の話題 2024】

【現代日本人のルーツ探索】【空白の4世紀の謎を探る資料 インターネットより採録】



4世紀というのは、日本列島の国の成り立ちが一気に進んでいくような時代 福永伸哉さん

【資料採録】日本古代史の謎 空白の4世紀 なぜ大陸から渡来人がやってきたのだろうか？

注目を浴びる謎の4世紀 製鉄技術の伝来にも深くかかわる謎

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron11.pdf> 2024.11.5.

日本の古代史「空白の4世紀」8つの謎 #01 -渡来人は何をもたらしたのか？ ほか

弥生時代のよく似た土器が、日本列島と朝鮮半島の両方から出土することから、かつてより渡来人の存在が指摘されてきた。大陸からわたった人々の一部は移住したとも考えられている。

彼らは倭国にどのような技術や生活習慣を伝えたのだろうか？

この資料の出所: 歴史人 2024年11月号『日本の古代史「空白の4世紀」8つの謎に迫る!』より 整理転載

【元ファイル】<https://search.app/t9cCDYNEBG3DAszYA> 歴史人編集部 2024.10.28.

内容をまだよく理解できていませんが、インターネットで見つけた資料を収集しました

## ■争乱の最中だった4世紀の朝鮮半島

朝鮮半島と日本列島とは、一衣帯水(いちいたいすい)などと言われ、距離が近く古代から往来があった。

とくに、朝鮮半島南部と日本列島の北部九州の間にはそのことがいえる。半島から列島へ渡ってきた人々をかつては帰化人と称していたが、多くの場合、帰化するためにやってきたのではないことから現在では渡来人といういい方がなされている。渡来人は時代を問わず、日本列島へ渡ってきているが、その数がとくに多い時期がみられる。

その第1波が4世紀から5世紀にかけてであり、このときは帯方(たいほう)郡周辺(朝鮮半島中西部)の人々が主に渡来したとされる。

ちなみに第2波は5世紀から6世紀にかけての時期とされ、このときは、今来漢人とよばれる百済系の人々が多く渡来してきたといわれる。

渡来人が日本列島へ多数渡ってきたとみなされる第1波に相当する4世紀は、朝鮮半島で大きな動きがあった。中国が半島に植民地として設置した帯方郡(現在のソウル付近)は、高句麗の南下に苦しめられ、313年に至ってその支配下にくみこまれた。

高句麗は4世紀末から5世紀にかけて好太王とその子の長寿王のもとで全盛期を形成し、朝鮮半島北部を領有した。一方、朝鮮半島の南部の状況はというと、東側に辰韓(12国)西側の馬韓(50余国)、南側に弁韓(12国)といった小国家群が乱立した三韓の時代を経て、辰韓からは356年に斯盧(しろ)国が統一国家である新羅を成立させた。馬韓では、伯濟(はくさい)国が345年頃に統一を成し遂げ、百済を作った。

こうして、高句麗・新羅・百済の3国時代となった。

一方、南側の弁韓は、4世紀後半になっても小国家分立の状況が続き、伽耶と称された。伽耶は、初期には現在の釜山付近の金官国が有力であったが、のちには内陸の大伽耶国に勢力が移った。統一国家ができなかった伽耶は、次第に新羅や百済からの圧迫を受けるようになり、562年に最後に残った大伽耶国が新羅によって滅ぼされ、滅亡した。



福井県・敦賀駅前に立つ渡来人の像

## ■戦乱からの逃避を求めた渡来人が上陸

このような戦乱が朝鮮各地で繰り返されていた時代に、逃避をはじめとして、さまざまな理由から自分の国を離れる多くの人々が出たであろうことは想像に難くない。そして、その受け皿としての役割を日本列島が果たしたことも、十分に肯定できよう。事実、列島内には渡来人が生活した痕跡がみられる。

たとえば、そのひとつに奈良県の高取町に所在する市尾カンテ遺跡があげられる。

遺跡は古墳時代のもので、大壁建物跡 16 棟、堀立柱建物8棟などが検出されている。

とりわけ大壁建物は、朝鮮半島に由来する技法とされ、市尾カンテ遺跡のものは東西 14.5m、南北 13mもあって、全体が把握できる例としては全国最大クラスである。

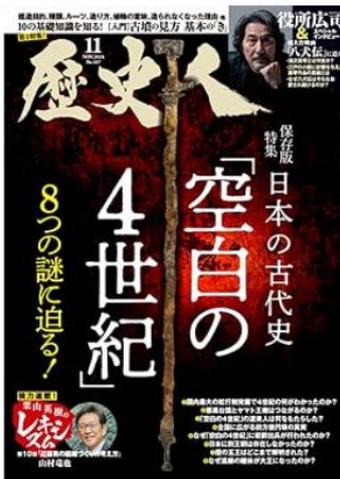
ちなみに、大壁建物の遺跡としては高取町の森ヲチヲサ遺跡もあげられる。

日本列島へやってきた渡来人の多くは、文筆、出納、鉄器生産、窯業などの進歩的な技術をもっていた。

そのため、ヤマト政権にとっても重要視される存在だった。

監修・文／瀧音能之

[歴史人 2024 年 11 月号『日本の古代史「空白の 4 世紀」 8 つの謎に迫る！』より](#)



【特集】日本の古代史「空白の 4 世紀」8 つの謎に迫る！

- ・国内最大の蛇行剣発掘で 4 世紀の何がわかったのか？
- ・邪馬台国とヤマト王権はつながるのか？
- ・「空白の 4 世紀」の渡来人は何をもたらした？
- ・全国に広がる前方後円墳の真実
- ・なぜ「空白の 4 世紀」に朝鮮出兵が行われたのか？
- ・日本に別王朝は存在しなかったのか？
- ・倭の五王はどこまで解明された？
- ・なぜ遠縁の継体が大王になったのか？

以下「空白の4世紀」をキーワードでインターネットから収集した資料を収録。

古墳時代の始まりのこの時代に日本の国がまとまり、また、現代人のルーツが構成されたという時代背景を知る手がかりになればと…… 上記雑誌の特集記事 取得できていません。

資料の内容 位置づけ 十分ではありませんが、おぼろげながらも4世紀のアウトラインがわかればと。

2024.11.5. Mutsu Nakanishi

## ■文献史料が沈黙する「空白の 4 世紀」とは何か？ 2024.10.28

古代日本の謎の 100 年が考古学で明らかに!?

### ■卑弥呼の時代の後に到来した「空白の 100 年」の謎

倭国の女王卑弥呼が魏の皇帝に朝貢し、銅鏡や「親魏倭王」の印綬を与えられた。

邪馬台国の位置については古くから大和説と九州説とがあって、『魏志』倭人伝の内容からだけではどちらとも言い難い。

ただ卑弥呼が倭国王として君臨していた3世紀前半頃、大和盆地の東南部の三輪山の麓一帯に、当時列島最大規模の大集落である纏向遺跡が営まれ、またそこには3世紀半ば頃に全長約 280m の当時最大の巨大前方後円墳が出現した。

それが箸墓古墳であり、これに続く世代の巨大古墳、西殿塚古墳

もその近辺に造られた。筆者を含め前者を卑弥呼の墓、後者を吾与(いよ)の墓に当てる研究者が多い。

以後、約 100 年にわたり中国史書から倭国の情報は途切れてしまう。



箸墓古墳出典:写真 AC

次に見える年号は、百済王から倭王に贈られた七枝刀に刻まれた銘文に見える泰和4年(369)である。

この間ほぼ100年。

だから一般には「空白の4世紀」とはいうけれども、より正確には空白なのは267年頃から369年までの約100年間なのである。

この間、文献は沈黙するが、古墳など考古資料は国家形成の動きを雄弁に語ってくれている。

箸墓、西殿塚のあと、行燈山(崇神天皇陵)古墳、渋谷向山(景行天皇陵)古墳と、オオヤマト古墳群に陸続と巨大前方後円墳が営まれる。これらの巨大古墳が3世紀半ばから約100年の間の大王の墓であることは間違いない。

ただこのオオヤマト古墳群が傑出していた時代は、4世紀の半ば頃になると、変化をきたし始める。

現在の奈良市北東部に生まれた佐紀古墳群にこれに匹敵するほどの巨大古墳が造られるようになるのだ。五社神古墳、宝来山古墳などは大王墓級と評価されている。ただ佐紀古墳群の全盛期も長くは続かなかった。

4世紀の末には、さらに河内平野に巨大古墳が造られるようになる。古市古墳群と百舌鳥古墳群とである。こうした巨大前方後円墳の移動をどう捉えるべきか。

単なる墓域の移動であって、政治的な背景は乏しいとする近藤義郎氏や吉村武彦氏の見解もある。墓域が河内へ移ったあとも大王の宮は大和盆地を離れておらず、権力に異変があったわけではないという見解である。

一方で4世紀半ば過ぎと、4世紀末の2度にわたり、ヤマト政権に内乱が起きたという説がある。

この説を唱える塚口義信氏によると、1度目に起きた三輪山の麓に本拠を置く政権から奈良盆地北部の佐紀の政権への交代の背景には、朝鮮諸国に対する外交政策をめぐる対立があったという。

新しく勢力を握った佐紀政権は、百済との同盟をもとに積極的に半島へ乗り出し、鉄素材や大陸系の新しい文物を一元的に獲得したとされる。石上神宮に納められた七枝刀の銘文には、泰和4年(369)に百済王の子(後継者である皇子)が倭王のためにこの優れた刀を送るといった内容が記されている。塚口氏は、この刀は、この直前に結ばれた百済と倭の軍事同盟の記念に贈られたと考えている。

同氏によると、その佐紀政権が4世紀末にまたも内部分裂した。政権内のもともと反主流派だった応神が、政権主流派を打倒して王位を奪い取ったというのである。その際、葛城氏、和邇氏、吉備氏の前身集団らが応神に味方したという。

その結果、河内に巨大古墳が造られるようになる。

監修・文/水谷千秋

## ■日本古代史ミステリー「空白の四世紀」に何があったのか? 2023.08.31.20.

[入門]古墳と文献史学から読み解く!大王・豪族の古代史 #088

わが国の歴史には「空白の四世紀」とか「謎の四世紀」と呼ばれる、まったく記述のない時代がある。

しかしながらその空白の入口である弥生時代末期と出口の「倭の五王」の時代では、すべての面であまりにも違いが大きすぎる。この期間はなぜ空白で、いったい何があったのだろうか?

### ■卑弥呼から倭の五王までの時代は謎だらけ



柏木 宏之

奈良県桜井市にある「三輪明神大神神社」の主祭神である大物主大神の妻が

「倭迹迹日百襲姫命(やまとととひももそひめのみこと)」で、箸墓に埋葬されたと伝わっている。(撮影:柏木宏之)

突然のように出現した巨大な前方後円墳が大和から広がりを見せる3世紀後半～5世紀初頭は、具体的な記録が無いの

で「空白の四世紀」といわれています。

中国の史書を参考にすると、『晋書 倭人伝(しんじょ わじんでん)』にある邪馬台国の新女王台与(とよ)が 266 年に朝貢をした記録が最後で、次に『宋書』などに現れる「倭の五王」までが何も情報がない空白の期間とされています。

そして、この約 150 年の間に日本列島の人々の暮らしが大きく変化しています。

まず第一に、弥生時代の邪馬台国は魏の皇帝に戦の救援を求めていますので、戦乱で苦境に立たされているようです。

つまり、まだ邑国同士が激しく争っていた小国時代です。

それが 5 世紀の倭の五王の時代になると、王権がほぼ確立して権威ある肩書を中国皇帝に要求しています。

つまりこの間に大和王権がほぼ確立したと考えられます。

また同時に前方後円墳が各地に広まっているのです。

そして古墳の副葬品を見てみると、『魏志倭人伝』に「倭国には牛や馬はいない」と書かれていたにもかかわらず、馬具が多く出てくるので馬が輸入されていたと考えられます。輸入どころか日本列島で繁殖に成功していたのでしょうか。

このように空白の期間は日本列島の文化や政治体制が大きく変わったときでもあるのです。

現在の中国吉林省にある高句麗の「好太王碑文」には、倭軍が攻め込んできたという内容も書かれていて、大和国の朝鮮半島への積極的なかわりも見えます。なぜこの期間の記録がないのかといえば、大和にはまだ文字がなく書き残されたものがないからです。

では中国はどうかといえば、地球の寒冷化によると思われる混乱の時代でした。

中華国家は匈奴の侵入に悩まされ、五胡十六国時代に突入して南北朝時代まで混乱が続きます。

とても海を隔てた辺境の倭国にかかわっている暇がなかったのでしょうか。

しかし日本列島は海に囲まれていることで大陸や朝鮮半島の混乱に巻き込まれず、その間に列島内の小国と折り合いをつけた大和王権が国家体制の礎を確立していくのです。

ただ、まったく大陸の混乱に関係がなかったかというところでもなく、渡来人が日本列島に逃げ込んできます。

現在の奈良県高取町市尾カンデ遺跡の「大壁建物」の調査では、4 世紀後半ぐらいには渡来人が多くやって来たと考えられています。そういった先進の渡来文化が流入した時期でもあるのでしょうか。

記録はありませんが、前方後円墳をはじめ様々な遺跡の考古学史料は豊富ですから、ここから推測すると、かなりダイナミックな政治的・文化的な変革が日本列島にもあったことがわかります。

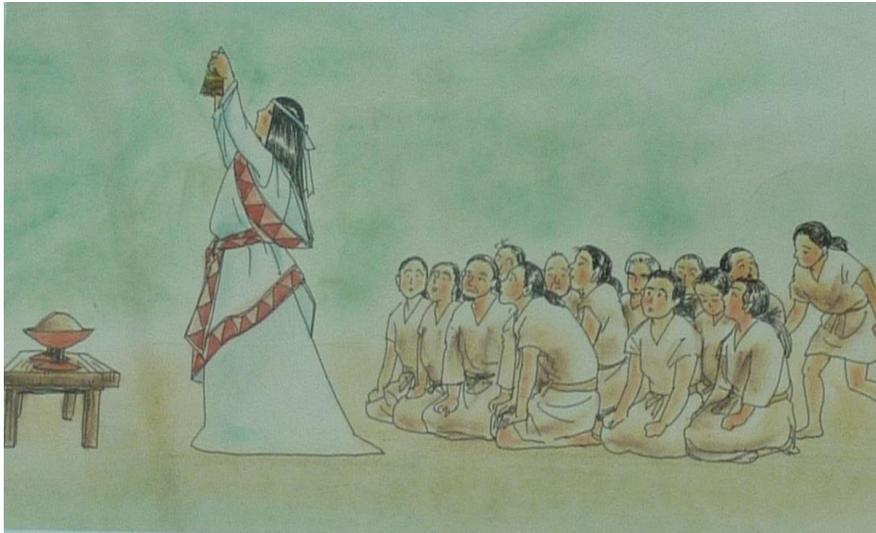
風俗も大きく変わり、弥生時代の男が全員していた「黥面文身」という入れ墨の風俗は駆逐されています。

また、銅鐸祭祀や銅剣銅矛祭祀も姿を消します。

出雲の加茂岩倉遺跡と荒神谷遺跡は、まさに弥生祭祀の両文化が終焉した証拠かもしれません。

こういったダイナミックな混乱期は地球の寒冷化に原因があったのだと思われます。

大陸が混乱する中で、比較的温暖で海に隔てられていた日本列島内は大変革に成功したのでしょうか。



弥生時代における祭祀の想像図。主に近畿地方では、鏡や銅鐸を使用していたと考えられている。

(参考:高槻市安満遺跡公園公開展示パネル / 撮影: 柏木宏之)

縄文人の祖先の系統は、他の古代および現在の東アジア人とは大きく異なる東南アジアに起源を持つと提唱されている(12-14)。この分岐のタイミングは、以前は 1800~3800 年前と推定されていました(14)。

8800年前古い縄文個体のROHプロファイルを用いたモデリングでは、この年代を2000~15000前の範囲内の下限に絞り込む(図3)。

注) ka???: x1000年でしょうか??? 以下Kaを一応x1000年に置き換えました Mutsu

日本列島は、最終氷期極大期(LGM)の初め(28ヶ月前)(34)に朝鮮半島を通じてアクセス可能になり、大陸と列島との間の人口移動を可能にした。その後、海面上昇により17000~16000前に朝鮮海峡が拡大したことで、縄文人の系統が大陸の他の地域から孤立した可能性があり、また、縄文土器が生産された最古の証拠と一致している(2)。

また、私たちのROHモデリングでは、縄文人は初期縄文時代に~1000人という小さな有効個体数を維持しており、その後の期間や群島の異なる島々で彼らのゲノムプロファイルにはほとんど変化が見られないことも示されています。農業の普及は、ヨーロッパのほとんどの新石器時代の移行で記録されているように、人口の入れ替えによって特徴づけられることが多く、多くの地域で観察された狩猟採集民の人口からの貢献は最小限に抑えられている(37-40)。

しかし、先史時代の日本における農業の移行は、同化のプロセスではなく、同化のプロセスを含んでおり、九州の先住民の縄文人と九州の新たな移民からの遺伝的貢献がほぼ同等であったという遺伝的証拠が見つかりました(図4)。

このことは、弥生時代初期には、少なくとも一部の島の一部分が農業移民に匹敵する規模の縄文人人口を支えていたことを示唆しており、それは一部の縄文人コミュニティが実践していた高度な定住生活に反映されている(50-53)。

弥生族が受け継いだ大陸の構成要素は、アムール川の祖先が高い(すなわち、WRLBA<sub>o</sub>とHMMH<sub>MN</sub>)西遼河流域の中期新石器時代と青銅器時代の人々によって最もよく表されている(20)。

この地域の集団は、時間と空間において遺伝的に不均一である(20)。

新石器時代中期から後期への移行期(すなわち、6500から3500年前)は、黄河の祖先が25%から92%に増加したが、アムール川の祖先は時間の経過とともに75%から8%に減少したことを特徴としており、これはキビ農業の激化と関連している可能性がある(20)。

しかし、約3500年前に始まった青銅器時代には、アムール川流域からの人々の明らかな流入により、人口構造が再び変化します(図S17)(20)。これは、トランスユーラシア語とシナ語の言語サブグループの間で集中的な言語借用が始まったことと一致している(54)。

弥生族への過剰な親和性は、古代アムール川の集団や現在のツングス語を話す集団に遺伝的に近い個体に観察できる(図4、図S17)。

我々の知見は、遼東半島周辺のどこかに住んでいた人々によって湿式稲作が群島に導入されたが、彼らの祖先の主要な構成要素はさらに北の人口から来ていることを示唆しているが、稲作の普及は西遼河流域の南で始まった(55)。

古墳文化の最も顕著な考古学的特徴は、エリートを鍵穴型の塚に埋める習慣であり、その大きさは階層的な地位と政治権力を反映しています(1)。

この研究で配列決定された3人の古墳個体は、それらの古墳に埋もれていなかった(注S1参照)ことから、彼らは下位の人々であったことが示唆されます。彼らのゲノムは、東アジア系が多数派の人々が日本に到着し、弥生集団と混ざり合ったことを記録している(図5、図S17)。

この追加の祖先は、私たちの分析では、複数の祖先の要素を持つハンによって最もよく表されています。

最近の研究では、新石器時代以降、大陸では人々が形態学的に均質になったと報告されており(56)、これは古墳時代の移民がすでに高度に混ざり合っていたことを示唆しています。

いくつかの考古学的証拠は、弥生-古墳の移行期に、おそらく朝鮮半島南部から日本に新たな大規模な集落が導入されたことを裏付けています。

日本、韓国、中国の間には、中国の鏡や硬貨、韓国の鉄生産原料(1)、金属製の道具(刀剣など)に刻まれた漢字など、いくつかの輸入品からも強い文化的・政治的親和性が見て取れる(57)。

海外からのこれらのリソースへのアクセスは、群島内のコミュニティ間で激しい競争をもたらしました。

これにより、黄海沿岸などの大陸の政体との政治的接触が促進され、支配権を争うようになった(1)。

したがって、継続的な移住と大陸への影響は、古墳時代を通じて明らかです。

私たちの発見は、この状態形成段階での新しい社会的、文化的、政治的形質の出現に関与する遺伝的交換を強力に支持しています。

この分析には注意点があります。第一に、弥生文化に関連する骨格遺物が形態学的に縄文と類似している地域からの後期弥生個体は2人だけに限定されています(16)。

他の地域や他の時点の弥生の個人は、大陸のような祖先や古墳のような祖先など、異なる祖先のプロファイルを持っている可能性があります。

次に、サンプリングは非ランダムであり、同じ埋葬地から来た3人の古墳の個体の場合(表S1)の場合も同様です。弥生と古墳の遺伝的祖先の時間的および地域的な変動を追跡し、ここで提案されている日本人集団の三者構造の包括的なビューを提供するためには、追加の古代ゲノムデータが必要になります。

要約すると、私たちの研究は、農業と技術主導の人口移動が大陸の他の地域からの数千年間の孤立を終わらせる前後の両方で、日本列島に住んでいた人々のゲノムプロファイルの変化を詳細に調べています。

これらの孤立した地域の個人に関する古代のゲノミクスは、主要な文化的移行がヒト集団の遺伝的構成に及ぼす影響の大きさを観察するユニークな機会を提供します。(以下 省略 津用ならば、原文で)

【和鉄の道・Iron Road】【鉄の話題 2024】

【現代日本人のルーツ探索】【謎の4世紀を探る資料 インターネットより採録】



4世紀というのは、日本列島の国の成り立ちが一気に進んでいくような時代 福永伸哉さん

【資料採録】日本古代史の謎 空白の4世紀 なぜ大陸から渡来人がやってきたのだろうか？

注目を浴びる謎の4世紀 製鉄技術の伝来にも深くかかわる謎

<https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron11.pdf> 2024.11.5.

日本の古代史「空白の4世紀」8つの謎 #01 -渡来人は何をもちたのか? ほか

【PDF File】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/2024iron/24iron11.pdf>

【PDF File】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2024htm/iron20/R0611Toraijinweb.pdf>

【URL】和鉄の道・Iron Road HP Top page <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

2024.11.5. 作成